



## 卷頭座談会 内なる日中韓 ～日本社会の中から考える東アジアの将来～

金 重明 × 段 跳中 × 田嶋 淳子

日中韓正常化30周年、そして日韓共同のワールドカップ開催の年を迎えた2002年。各国において国を挙げての記念行事が続く。一方、長年日本で暮らし、地域社会に溶け込みながら日本社会の活性化に貢献してきた多くの中国人や韓国人の姿は、もはや日本人にとって日常の景色となっている。ともすると、海を越えた大がかりな国際交流に目を奪われがちだが、今回は、ごく身近にある東アジアの縮図を、日本に暮らす中国人ジャーナリストの段躍中氏と在日韓国人二世で作家の金重明氏、そして在日外国人の研究をする社会学者の田嶋淳子氏に語ってもらう。

**日本に暮らす中国人、韓国人として**  
**金** 私は在日二世です。私が育ったころは、差別が深刻な時代でした。私は十八歳まで日本名を使い、日本人のように生きてきました。だから中学の友達は、私が朝鮮人であることを知らない人がほとんどだと思います。大学に入るときに今の名前を使うようになりました。今は日本語で小説を書きながら、韓国の文献の翻訳などをしています。

**在日韓国人は日本名を使っている場合が多いのですが、最近は日本の映画を見てたりして、日本の社会が開けてきたという印象がありますね。活躍する場がどんどん開けていくような予感がします。**

**田嶋 通名から本名に変えた理由をお聞かせください**

**金** 民族にこだわるようになったのです。初めは韓国の言葉も歴史も全然知りませんでした。高校時代、韓国は朴正熙の軍事独裁政権下でそれに対する民主化運動が盛んだつたのですが、そういう記事などを読んで、民族というものにこだわりはじめました。このまま日本人に化けていたのではダメだとう強迫観念があつたのです。そのころから小説を書きたいと思っていましたが、肩肘張つていて全然書けませんでした。本名を名乗るようになって十年ぐらいして、民族へのこだわりが自然体になつたときに、初めて文章を書けるようになりました。

**段** 私は、一九九一年に来日しました。出身は中国の湖南省です。中国では新聞記者をしていました。すでに来日していた妻の誘い

**Asia Center News**

# アジアセンターNEWS

## 2002 No.20

国際交流基金アジアセンター  
The Japan Foundation Asia Center

### 巻頭座談会

#### 内なる日中韓

～日本社会の中から考える東アジアの将来～  
金 重明 × 段 跳中 × 田嶋 淳子

#### 開高健記念 アジア作家講演会シリーズ11

小説家としての私と私の経験  
チャート・コープチッティ

#### 貸本漫画のルーツを求めて

東アジアのコミック事情と可能性  
夏目 房之介

#### 次世代リーダーフェローシップ・プログラム

韓国の手話を探る  
岩井 智彦

#### アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム

貧困撲滅に取り組むアジア  
アネク・ナカブタラ × マヘンドラ・ラマ

#### アジア理解講座

国境を利用して生きる人々  
長津 一史

#### 助成事業報告

アジアから発信する、アジアの問題  
～『汎アジア文化研究』誌の発行～  
チュア・ベン・ホア、クアン・シン・チェン

#### ニューデリー便り

インドの最新音楽事情  
佐藤 幸治

#### インフォメーション

1

6

10

15

17

20

22

24

25

C o n t e n t s



表紙作品紹介  
ハム・ジン  
《Installation》2001年

1978年韓国生まれ。ソウル在住。暁園大学環境彫刻学科卒業。つまようじ、わら、魚の骨などユニークな素材を使ったミニチュア彫刻やフィギュアを制作。「韓国現代美術の新世代'99—ミキサー&ジューサー」展(1999年)、「釜山アートフェスティバル離島」展(2000年)、「冒瀆—残酷、異形、奇妙なものへ」展(2000年)などに出品。  
小さすぎて目に入らないものや、日常見すごしてしまうようなものをモチーフに、現実からかけ離れた独自な世界を表現。煮干しや、昆虫の死骸を使って構成される微小なフィギュアが繰り広げるミクロの世界には、作者の独自の関心や想像力が込められている。

で日本に来て、今は小さい出版社を作り、日本人向けに中国と在日中国人に関する書物を発行しています。

日中関係は、この三十年間に大きく変化しました。これだけ多くの中国人が日本で活躍している理由は二つあります。一つはやはり中国の改革開放。もう一つは日本の国際化。中国人がいくら努力しても、活躍する舞台を提供してくれなければ、あり得なかつたと思います。

田嶋 私は大学で中国語を専攻して、卒業後はOL生活をしながら二年間中国に留学。

帰国後大学院に入学し、今は在日外国人問題を中心に日本社会を研究しています。対象は、日本にいる中国、あるいは在日を含めた韓国、そして台湾のかたがたです。ここ十四年ほどは、池袋と新宿に暮らす在日外国人を研究しています。日本社会が今後どう開かれていくのかを考えています。そこで金さん、民族的なことだわりが、日本でどう変化していくのかをもう少し詳しくお話しください。

金 私は自分は韓国人だと思っていましたが、いまだに韓国生まれの韓国人のようには発音できません。自分の名前すら正確には無理なんです。初めは本当の韓国人のようにならなければいけないと凝り固まっていますが、それは不可能だと直してから、肩の力が抜けたのかな。日本で生まれ育った在日の歴史をみずから否定する必要はなく、そのまま受け入れることが大切じゃないかと思つたのです。

よく在日は、日本でも韓国でも疎外されているといいますが、実際、韓国の韓国人は在日のことをほとんど知らないし、私のことも日本人扱いします。非常に心外なんですがね。そういう意味で、韓国政府も民衆も、在日韓国人のことを理解していないし冷たいですね。ただ、それを恨みがましく思う必

段 私は自分は韓国人だと思っていましたが、いまだに韓国生まれの韓国人のようには発音できません。自分の名前すら正確には無理なんです。初めは本当の韓国人のようにならなければいけないと凝り固まっていますが、それは不可能だと直してから、肩の力が抜けたのかな。日本で生まれ育った在日の歴史をみずから否定する必要はなく、そのまま受け入れることが大切じゃないかと思つたのです。

よく在日は、日本でも韓国でも疎外されているといいますが、実際、韓国の韓国人は在日のことをほとんど知らないし、私のことも日本人扱いします。非常に心外なんですがね。そういう意味で、韓国政府も民衆も、在日韓国人のことを理解していないし冷たいですね。ただ、それを恨みがましく思う必

## 相手の国の言葉を学ぶ

も、ウイーンフィルの新年コンサートで中国語でいいさつをした。これは中国の新聞でも大きく取り上げられ注目を浴びました。日中國交回復三十周年に向けて、日本側からエネルギーを送っているのではないかでしょうか。

田嶋 中国語はどんどん増えていますが、大学で韓国語の選択がなかなかできないことが気になります。在日韓国・朝鮮人の民族教育について調べている学生が、日本の国際理解教育がなぜ英語で、韓国語ではないんだ、と指摘していました。中国や韓国の理解も身近な国際理解教育であるはずなのに、ということです。

金 以前に比べれば増えています。昔はなかなか天理大くらいかな。たださつきから日本社会は開かれてきたという話ばかりしているのですが、目が東アジアに向いていないのは、もう昔からで今も変わらずですね。

また、韓国語を勉強して、韓国に向き合おうとしているかといえば、それは疑問ですね。韓国に旅行に行く人も、料理やブランド・ショッピングのレベルで止まっている。歴史とか文化から韓国を理解しようとしている。かなりゆがんだ構造です。韓国を見ながら、東アジアを見ていないんですね。中国の場合は、日本に来て学位を取る

要もなく、日本に生きていた韓国人という自分の生きる道を探つていただけて、そこから自分がと思うようになり、自由に発想できるようになったと思っています。

田嶋 韓国から新しく来たニューカマーズと呼ばれる新規在住者が最近増えて、日本社会に対する受けとめ方が在日の人たちとは違つたようですが、在日の人たちにもニューカマーズとは違うという認識があるのでしょうか。

金 ありますよ。私は新しく来た人たちを「古来の人々」と呼んでいます。私たちにはそういうのがなく、韓国人としての誇りはありませんし、ほとんどが日本名を使っています。「古来の人々」は、韓国語も韓国文化も知らないし、ほとんどが日本名を使っています。在日の「古来」の若者には、日本社会の韓国人に対するマイナスイメージが刷り込まれているんです。そのマイナスイメージのせいで本名を名乗ることができないのですが、「古来」にはそういうのがなく、韓国人としての誇りにあふれています。「古来」の場合、結局、日本からも韓国からも冷たくされて、ひねくれているようなところもあります。しかし在日本という今の位置を、そのまま認めることで、在日の未来も開けてくると思います。

私が小さいころ、キムチを食べると臭くなかったらといって、外出前は食べなかつたものですが、今はスーパーでも買えるでしょう。テレビでも韓国番組を見るし、だから今の「古来」の高校生くらいの世代が大人になつたときは、在日の世界もずいぶん変わつていくと思つています。

田嶋 金さんが翻訳された「シュリ」などの映画を通じて、日本の若者たちの韓國観が変わりはじめましたね。金さんのように日本社会で生まれ育ち、逆に韓国を理解していく人も有利ですよ。中国語を勉強して中国の文化や歴史をもっと理解してほしいですね。中国人が日本語で本を書いて日本で出版した件数は、この十五年間で六百冊以上になりました。逆に、日本人が中国で中国語で書いた本は、私の調べたところでは、一冊も見つけてないです。

田嶋 中国語で直接書いて、正式に出版している本が一冊あるはずです。

金 段 そうですか。それはいいことです。互いの言葉での出版は、深い文化交流につながると思います。

田嶋 日本の交流は表面的なつき合いが多く、本当のところを理解しているかというと、かなりずれがあります。例えば中国や韓国、台湾から多くの人が日本にやって来て、日本で十何年暮らして、定住ビザや永住ビザを取得して定住する。これは、かつて金さんの父様たちが日本に定住した経緯とは違い、自分の選択の積み重ねです。そういう人たちの影響力がどんどん広がって、社会そのものを大きく変えているにもかかわらず、大もとで、相手への理解不足を感じます。去年の教科書問題のやりとりなども、何かが足りないという感じがするんです。去年の十二月に朝日新聞で意識調査をしたときも、韓国、中国、日本の意識のずれが大きくて気になります。

田嶋 まず教科書問題について言えば、韓国や中国から批判されるから逆に反発している部分もあると思います。しかし考えてみれば、先の戦争でひどい目に遭つたのは、東アジアの人々だけではなく、日本人だって何百万人という単位でのたれ死にしているわけではありません。のたれ死にさせられたことは、東アジアの親御さんたちとよく話をしますが、やはりすごく心配しています。金さん自身の体験からいかがですか。

金 田嶋 段 そうですね。私は「中国青年報」記者を経て、1991年日本に留学。新潟大学大学院で学び、学術博士号を取得。98年、日本で活躍する学者や実業家など人名約1万人、企業や書物など約5万件の情報を収めたデータベース「在日中国人大全」を出版し、高い評価を受ける。日中両国語新聞「日本僑報」の編集長を務める。著書に「中国人の見た日本」など。

田嶋 中国湖南省生まれ。東京外国語大学中国語科卒業。銀行勤務を経て、1985年から2年間中国人民大学(北京)、復旦大学(上海)に留学。その後、立教大学大学院社会学研究科博士課程後期課程満期退学。社会学博士。98年から1年間中国社会科学院社会学研究所、香港中文大学社会学部、台湾中央研究院東南アジア区域研究計画に滞在。淑德大学社会学部教授。専攻は都市社会学。著書に「世界都市・東京のアジア系移住者」。

段 田嶋 段 中国の場合は、多くの人が海を渡り、日本人と結婚しています。家庭のカルチャーショックはもちろんですが、国際化は、子どもたちの意識に大きいかかわっている。中国と日本、両方とも子どもにとって重要な国なのです。

田嶋 昨年のNHK紅白歌合戦で、男性の歌手が中国語でいさつしたんです。これは西期的なことですね。また指揮者の小澤征爾さんは、観光客も大きいですね。韓国からの入国者は、百万人を超えており、日本から行く数も多い。つまり実際に自分の目で見る機会が増えて、日本に興味を持つ韓国人も多いですね。

田嶋 田嶋 段 中国の場合は、多くの人が海を渡り、日本人と結婚しています。家庭のカルチャーショックはもちろんですが、国際化は、子どもたちの意識に大きいかかわっている。中国と日本、両方とも子どもにとって重要な国なのです。

田嶋 中国の声を日本社会に伝えることはむずかしいと感じます。これは何も政府レベルの問題には限らず、民間レベルでも同じですね。

田嶋 田嶋 段 そうですね。中国や韓国から日本に来て定着した人の子どもたちが公立の学校へ通うと、いままでに問題になつてている教育を受けられるわけですね。子どもを持つ中国人が中国語でいさつしたんです。これは西期的なことです。また指揮者の小澤征爾さんは、中国語でいさつしたんです。これは西期的なことです。

田嶋 田嶋 段 そうですね。中国や韓国から日本に来て定着した人の子どもたちが公立の学校へ通うと、いままでに問題になつてている教育を受けられるわけですね。子どもを持つ中国人が中国語でいさつしたんです。これは西期的なことです。また指揮者の小澤征爾さんは、中国語でいさつしたんです。これは西期的なことです。

田嶋 田嶋 段 もう一度考え直すべきではないでしょうか。もう一つ、これから東アジアを考えていく場合、漢字文化圏というのがキーワードになりました。韓国では漢字を一時全廃していましたが、最近では小学校から教えるようになっています。漢字文化圏は今後、アメリカに対する大きな対抗勢力になると思います。

田嶋 田嶋 段 もう一つ、これから東アジアを考えていく場合、漢字文化圏というのがキーワードになりました。韓国語を勉強していく、日本語と韓国語の発音が違うためできませんでした。日本も書き言葉の復権は、漢字が担うのではないで

田嶋 田嶋 段 ます。昔中国で、漢字を廃止して文字を表音文字化しようとしたが、地方によつて発音が違うためできませんでした。日本も



丹 躍中 (ジャーナリスト)

中国湖南省生まれ。北京の「中国青年報」記者を経て、1991年日本に留学。新潟大学大学院で学び、学術博士号を取得。98年、日本で活躍する学者や実業家など人名約1万人、企業や書物など約5万件の情報を収めたデータベース「在日中国人大全」を出版し、高い評価を受ける。日中両国語新聞「日本僑報」の編集長を務める。著書に「中国人の見た日本」など。



田嶋 淳子 (社会学者)

東京都生まれ。東京外国语大学中国語科卒業。銀行勤務を経て、1985年から2年間中国人民大学(北京)、復旦大学(上海)に留学。その後、立教大学大学院社会学研究科博士課程後期課程満期退学。社会学博士。98年から1年間中国社会科学院社会学研究所、香港中文大学社会学部、台湾中央研究院東南アジア区域研究計画に滞在。淑德大学社会学部教授。専攻は都市社会学。著書に「世界都市・東京のアジア系移住者」。



キム チュンミヨン (作家)

東京都生まれ。東京大学、大阪外国语大学朝鮮語学科中退。「算学武芸帳」で第8回朝日新人文学賞を受賞。長編小説に「幻の大国民」(新幹社)、「戊辰算学戦記」(朝日新聞社)、「鬼の民」(講談社)。訳書に「キム・ミンギー—韓国民衆歌謡の希望と壁」(新幹社)、「濟州島四・三事件」(新幹社・共訳)、「被告人閣下」(文藝春秋)、「シュリ」(文藝春秋)、「JSA」(文藝春秋)、「友へ—チング」(文藝春秋)、「地下鉄1号線」(新幹社)など。

江戸時代までは、方言のため違う地方の人たちは話を理解することができませんでしたが、いわゆる候文のおかげで、九州の人と東北の人も意志疎通が可能だったという事情もあります。漢字の復権のなかで、日本と中国、韓国がつながれるんじゃないかと思いません。マイナスの歴史のことばかり言われますが、私は、日本海とか東シナ海が地中海になれないことを非常に残念に思っています。

田嶋 私はかつて、日本の誤った同文同種（人種も使用文字も同じであること）を徹底的に批判したうえで中国語を教えられたので、今の金さんの意見には必ずしも賛成できません。違うところをきちんと見据えていかないと、同じ漢字文化圏での相互交流にはならないと思います。

段 漢字文化圏の話は、中国、韓国、日本の三ヵ国にとって、重要なテーマですね。ただ、日本は、独特の日本の文化を持つている。似ています。これは五年前には見られなかつた現象ですね。

最近、韓国語を勉強する中国人が多くなっています。これは五年前には見られなかつた現象ですね。

田嶋 去年ソウルへ行ったら、土産店で中国人が働いていました。親族を頼ってソウルへ来て、そこで働いている不法滞在なんですね。半年のつもりが、一年半ぐらいになってしまつて、ということでした。もちろん親族ですから、朝鮮語ができる中国籍の朝鮮族ですが、中国の人の韓国に対する関心の高まりがわかります。また福建省の平潭島では、県政府の壁に、韓国のコンピューター技術者募集の張り紙があった。こんなところまで人を募集にくるのかと、びっくりしました。

深川では、台湾人が経営している工場で、韓国人と日本人が技術者として働いていました。技術者の交流は、日本国内より、中国

しいのですが、公的な部分と私的な部分をつないでいくようなボランタリーなネットワークが、地域にも育っていくといいます。中国人なら中国人、韓国人なら韓国人で閉じたネットワークにせず、もう一度開いて、作り直す必要があり、そういう試みが少しずつ増えています。例えば池袋では、一般の人に呼びかけて、そういうネットワークの存在を理解してもらおうという活動があり、それに主体的にかかわろうとしている人たちがいる。今年はワールドカップがあり、日本と韓国はビザなしで行き来できるようにしようという動きもある。それが実現するかどうかは不明ですが、とにかくやらないと、きっと何も進まないでしょうね。

段 そういったケースは、全体から見ればまだ足りないです。実際に私たちの活動も限界に来ています。毎月一回、いろんな人を呼んで、在日中国人社会の変化や日本社会にどのように貢献しているかといった講演会をしてもらっていますが、場所代などコストがかかり、会費だけではもうやっていけない状態です。残念ながら、今年はもう運営していかなくなる。せっかく日本にいるのだから、日本のメリットを生かして、もう少しいい成果を出したいと願っていますが。

段 もう一つ、近隣の在日中国人とのつき合いは無視して、わざわざ中国に行つて活動する日本人が結構いますね。中国に行けば、中国政府や民間レベルで重視され、マスコミにも登場できて華やかだからでしょうか。しかし近所に住む在日中国人のことは、何も知らないのです。在日中国人が報道されるときは、ほとんど犯罪者扱いで、イメージが悪すぎます。

私は小さいながら、在日中国人文献資料センターを個人で作っています。田嶋さんに助けてもらい、まず小さい文庫から始め、少しづつ大きくなっています。こんな所もも

## 在日外国人の教育問題

や別の地域で見られるかもしません。

段 現在在日中国人として直面している大きな問題が二つあります。一つは、子どもたちの入管行政の頑なさには、あきれぱかりです。居丈高で入管に行くたびに腹が立ちます。韓国だけじゃなく、アジアの人たちに対しても露骨に差別的な、見下すような態度で対応することが多いんです。私は結婚したころはソウルに住んでいましたが、韓国人の妻と日本に帰ったときの手続きには、本当に何度も腹が立ちました。韓国から日本に旅行するだけなのに、不愉快な思いをして、朝鮮学校も元気がなくなつたのです。最近、朝鮮総連が元気がなくなつたのです。結局、韓国や東アジアから来た者は、出稼ぎか、半分犯罪者みたいな目で見ているのが露骨にわかります。

現在の日本の公教育の場で、多民族的なものを受け入れていくのはむずかしいと思います。最近、朝鮮総連が元気がなくなつたのです。朝鮮学校も元気がなくなつたのです。それでも多くの在日の大人は、子どもを朝鮮学校に送ります。これは北朝鮮を支持しています。

段 それはいいアイデアですね。「国際化の話をしたい」と申し込んで、子どもに不利になるかもしれないという心配はあります。外国人の親たちに、一度でもいいからそういう機会が与えられることで、身近な人々の意識がだと思います。

田嶋 民族学校や華僑学校を、各種学校ではなく私学として認定していこうという動きは、今後出てくると思います。いまできることは、国際理解教育というプログラムを公立学校で行ない、例えば段さんが保護者として子どもたちに中国の話をするような機会を設けていくんです。タイ人のお母さんもいるだろうし、フィリピン人のお母さんもいるでしよう。そういう人たちが、自分の子どもが通っている学校で開かれた状況をつくつていくのです。そういう学校の変化は可能だと思います。

田嶋 金さんは翻訳もされていますが、その視点からどう思われますか。

金 「シリ」みたいな本が日本で売れるなんてことは、十年前には全然信じられませんで、日本人が韓国や中国に行くときには、同じようにかなりの深い理解が可能になる時代になつてきたと思います。

田嶋 インターネットによる発信はとてもすばらしい。国境もないし、活字メディアよりも影響力もある。日本から中国に向けては、共同通信社、日経BP社など四カ所ぐらいために中国語のホームページを作つていて、かなり高く評価されています。国際交流基金のホームページにも中国語が必要だと思いません。中国語のホームページは、十五億人といふべきページは、自分から行かなければ情報を入れきれないが、メールマガジンは、アドレスを登録したら、ずっと受け取れます。私も毎週、在日中国人や日中関係の情報を集めて週刊メールマガジン「日本橋報電子週刊」を発信していますが、

段 金 中国側では、政府でも民間レベルでも日本語による発信に力を入れています。

田嶋 金さんは翻訳もされていますが、その視点からどう思われますか。

金 「シリ」みたいな本が日本で売れるなんてことは、十年前には全然信じられませんで、日本人が韓国や中国に行くときには、同じようにかなりの深い理解が可能になる時代になつてきたと思います。

田嶋 金さんは翻訳もされていますが、その視点からどう思われますか。

金 『シリ』みたいな本が日本で売れるなんてことは、十年前には全然信じられませんで、日本人が韓国や中国に行くときには、同じようにかなりの深い理解が可能になる時代になつてきたと思います。

田嶋 金さんは翻訳もされていますが、その視点からどう思われますか。

金 田嶋さんによると、韓国はソウルで大ヒットした。韓国のベストセラー作家の小説を翻訳しても、二千～三千部くらいが普通だつたん

田嶋 田嶋さんによると、韓国はソウルで大ヒットした。韓国のベストセラー作家の小説を翻訳しても、二千～三千部くらいが普通だつたん

田嶋 田嶋さんによると、韓国はソウルで大ヒットした。韓国のベストセラー作家の小説を翻訳しても、二千～三千部くらいが普通だつたん

田嶋 田嶋さんによると、韓国はソウルで大ヒットした。韓国のベストセラー作家の小説を翻訳しても、二千～三千部くらいが普通だつたん

田嶋 田嶋さんによると、韓国はソウルで大ヒットした。韓国のベストセラー作家の小説を翻訳しても、二千～三千部くらいが普通だつたん

5

しているからではなく、日本の学校に行かせたくないからなんですね。教科書問題や国歌、国旗の問題もあるし。そもそも学校に行く

えるだけでもおもしろくありません。だから授業料も高いし、援助もなく設備も悪いので

ですが、朝鮮学校に行かせるのです。朝鮮学校を敵視するような政策も、大昔のままでしま

す。中国の子どもたちは、完璧な日本語をか達成できない。それには中国や韓国といつ

た近隣から来てもらうしかないんです。そうしたらきちんと相手を見て理解しなくてはいけないはずなんです。しかしまだまだですね。

田嶋 東京都にても、かつての運輸省にしても、海外からの観光客を七百万人来日させようという目標を掲げていますが、なかなか達成できません。それには中国や韓国といつ

た近隣から来てもらうしかないんです。そうしたらきちんと相手を見て理解しなくてはいけないはずなんです。しかしまだまだですね。

少しずつ変化していくは、すばらしいですね。田嶋 親がそういうことを語ると、子どもが学校へ行つて、子どもたちの前で「在日外国人社会は、いまこういうふうに活躍している。このことには否定するとのできない事実です。これは日本の民主主義の問題ですが、管理は歴史的見ても真っ赤な嘘であつて、現実を見れば、日本にはいろいろな民族が生きています。現場が混乱するのも当然ですね。

金 いまでもお偉いさんが日本は单一民族国家なんということをときどき言いますが、これは深刻な問題ではないかと思います。

田嶋 歴史は繰り返しているんでしょうか。そして学校に行くと日本名を使っている。これは、今後出てくると思います。いまできることは、国際理解教育というプログラムを公立学校で行ない、例えば段さんが保護者として子どもたちに中国の話をするような機会を設けていくんです。タイ人のお母さんもいるだろうし、フィリピン人のお母さんもいるでしよう。そういう人たちが、自分の子どもが通つている学校で開かれた状況をつくつていくのです。そういった学校の変化は可能だと思います。

田嶋 民族学校や華僑学校を、各種学校ではなく私学として認定していこうという動きは、今後出てくると思います。いまできることは、国際理解教育というプログラムを公立学校で行ない、例えば段さんが保護者として子どもたちに中国の話をするような機会を設けていくんです。タイ人のお母さんもいるだろうし、フィリピン人のお母さんもいるでしよう。そういう人たちが、自分の子どもが通つている学校で開かれた状況をつくつていくのです。そういった学校の変化は可能だと思います。

田嶋 金さんは翻訳もされていますが、日本社会は、いまこういうふうに活躍している。このことは、国際理解教育という前提で公教育を進めています。現場が混乱するのも当然ですね。

金 いまでもお偉いさんが日本は单一民族国家なんということをときどき言いますが、これは日本の民主主義の問題ですが、管理が非常に強く、公教育の場で下から上に意見が全然通じないようになつてしまつています。そこをなんとかしなければ、多民族教育なんて話は全然出てこないでしょう。これに関しては、前途暗澹たるものがあると思います。

田嶋 金さんは翻訳もされていますが、日本社会は、いまこういうふうに活躍している。このことは、国際理解教育という前提で公教育を進めています。現場が混乱するのも当然ですね。

田嶋 金さんは翻訳もされていますが、日本社会は、いまこういうふうに活躍している。このことは、国際理解教育という前提で公教育を進めています。現場が混乱するのも当然ですね。